

《履修上の留意事項》【遠隔授業のみ実施】

《担当者名》教授／中山 英二 教授／斎藤 隆史 教授／永易 裕樹 教授／飯嶋 雅弘
教授／古市 保志 教授／齊藤 正人 教授／越野 寿 教授／越智 守生
教授／長澤 敏行 教授／村田 勝 教授／奥村 一彦 教授／伊藤 修一
准教授／廣瀬 弥奈 准教授／廣瀬 由紀人 准教授／豊下 祥史
講師／佐野 友昭 講師／泉川 昌宣 講師／松田 康裕 講師／加藤 幸紀
講師／倉重 圭史 助教／福田 敦史 講師／仲西 康裕
非常勤講師／八田 政浩

【概 要】

3年次から臨床基礎科目に加え臨床科目の学習が始まり、一步、歯科医師に近づいたこととなる。そこで、臨床科目の学習を始めるにあたり、歯科診療の基礎について学び、臨床基礎科目の重要性を踏まえながら、歯科診療を実施するうえで基礎となる事柄について、幅広く知識を身に着けるとともに、基本的な手技を学習する。

【学習目標】

適切な手洗いについて説明する。
適切なグローブの装着について説明する。
頭頸部の触診について説明する。
バイタルサインの測定について説明する。
基本的な救急蘇生について説明する。
浸潤麻酔の基本を説明する。
エックス線フィルムの整理について説明する。
歯の切削の基本を説明する。
正常咬合と不正咬合を説明する。
各種口腔清掃法を説明する。
フッ化物による齲蝕予防について説明する。
下顎位と下顎運動を説明する。
咬合器の基本構造と取扱いを説明する。
訪問歯科診療の基本的事項を説明する
多職種連携の基本を説明する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1) 2	「歯科診療の基礎」講義の目的と概略 診療時の手洗いはなぜ必要か	「歯科診療の基礎」講義の目的と概略の説明 - 清潔域、不潔域の区別、手洗い時に使用する薬剤、手洗いの方法及びその効果について学ぶ。	永易 裕樹 村田 勝 奥村 一彦
3) 4	診療時のグローブ装着の意義	グローブ装着が必要な場合、その理由及び装着法について学ぶ。	永易 裕樹 村田 勝 奥村 一彦
5) 6	頭頸部の診察	顎口腔領域疾患の診査（口腔、頭頸部）法について学ぶ。	永易 裕樹 村田 勝 奥村 一彦
7) 8	バイタルサインとはなにか 救急蘇生とはなにか	- バイタルサイン測定の意義及び測定法を学ぶ。 - 救急蘇生法の意義及び実施法を学ぶ。	金澤 香 大桶 華子
9) 10	歯科診療に伴う痛みの局所的コントロール	歯科診療で最も多く用いられる浸潤麻酔法の基本と術式を学ぶ。	大桶 華子
11) 12	エックス線フィルムの基本	エックス線フィルムの取扱い法及び整理法について学ぶ。	中山 英二 佐野 友昭

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
13) 14	どういうときに、どうやって歯を切削するのか	歯の切削に用いる機器の取り扱いの基本を学ぶ。	斎藤 隆史 伊藤 修一 泉川 昌宣 松田 康裕
15) 16	正常咬合と不正咬合診かた	- 正常咬合の条件を学ぶ。 - 咬合に関する用語を学ぶ。 - 不正咬合の種類を学ぶ。 - Angleの不正咬合の分類を学ぶ。	飯嶋 雅弘 六車 武史
17) 18	ブラークコントロールとは	- ブラークコントロールの目的を理解する。 - ブラークコントロールの方法を理解する。 B-3-2)-	古市 保志 長澤 敏行 加藤 幸紀
19) 20	フッ化物による齲蝕予防	フッ化物歯面塗布・フッ化物洗口・フッ化物配合歯磨剤の応用方法を説明できる。 B)-3-2)-	齊藤 正人 廣瀬 弥奈 倉重 圭史 福田 敦史
21) 22	下顎位と下顎運動 1	- 正常有歯顎者の下顎位、下顎運動を 3 次元的に理解する。 - 下顎運動の分析に必要な基準点・基準平面を理解する。	越野 寿 豊下 祥史 越智 守生 廣瀬 由紀人 仲西 康裕
23) 24	下顎位と下顎運動 2 各種咬合器の構造と使用法	種々の咬合器の構造と使用法を学ぶ。	越野 寿 豊下 祥史 越智 守生 廣瀬 由紀人 仲西 康裕
25) 26	フェイスボウトランスファーと半調節性咬合器の調節	- 半調節性咬合器を用いたフェイスボウトランスファーについて学ぶ。 - チェックバイトを用いた半調節性咬合器の顎路調節について学ぶ	越野 寿 豊下 祥史 越 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕
27) 28	訪問歯科診療とは何か	訪問診療で必要となる基本知識を学ぶ。	越野 寿
29) 30	多職種連携の医療とは何か	地域医療で求められる多職種連携について学ぶ。	八田 政浩

【評価方法】

定期試験（100％）

【備 考】

教科書：その都度プリントを配付する。

【学習の準備】

予習として、講義内容をまとめる。（80分）

復習として、配付資料に目を通し、問題点を確認する。（80分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を修得している（専門的実践能力）。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を身につけている（自己研鑽力）。

DP4. 多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる（多職種が連携するチーム医療）。

DP5. 歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけている（社会的貢献）。